

読売教育賞 県内受賞者 下

優秀賞



幼児教育・保育部門

商店街を訪れた取り組みを振り返る
亀山園長（中央）ら（尼崎市で）

遠足代替 商店街と連携

七松幼稚園 尼崎市

コロナ禍の制約を乗り越え、園児らが地元商店主に話を聞くなどして取り組んだ、架空の町づくりの活動が評価された。

きっかけは、園恒例の芋掘り遠足が中止になったこと。代わりに行き先を園児らに話し合わせたところ、園児らが関心を持っていた地元の商店街に決まり、「買い物をして料理もしたい」と次々と膨らんだ。

材料費も、園児らは「お手伝いしたらお小遣いももらえるんちゃう」と考え、園長に「直談判」。お金の大切さも学びつつ、商店街で新米や玉ネギを買い求め、牛丼を調理した。高齢者が多い商店主も理解を示し、町ぐるみで園児を見守った。

1年間の活動をまとめた発表会では、幼稚園や商店街を中心にした町の様子を人形や絵で再現。園の玄関には消毒液も描かれ、担任保育士だった川上未歩さん（23）は「子どもの自主性に驚かされた」と話す。

活動は、子どもの関心や好奇心を掘り下げ、発展させる「プロジェクト型保育」の一環。今後は近くの小学校や老人施設とも連携したい考えで、亀山秀郎園長（43）は「子どもが自分の町や地域を学ぶ絶好の機会になっている」という。